

小学部低学年児童における 短時間で着替えるための取組

児童の実態

- 小学部低学年 知的障がい
- 人と関わることを好み、単語やジェスチャーで積極的にコミュニケーションをとろうとする。
- 「手伝ってください」と援助要求ができる。
- 1人で取り組む場面では、途中で爪噛みや指の皮むきをすることで行動が滞ってしまう。
- 特に、着替えについては10分程度でできる日もあれば、1時間以上かかる日もあり、ばらつきが大きい。

保護者の願い

- 身の回りのことが自分でできるようになってほしい。

担任の願い

- 身につけているスキルを日常生活で使ってほしい。
- 行動の滞りを減らすことで、楽しく前向きに過ごすことのできる場面を増やしたい。

アドバイザーからの助言



- ① 不器用さが意欲低下に関係することもあるため、教員の支援ありで目的の行動をとにかく早く終わらせる。
- ② 行動の後にごほうびがもらえる等、強化子を用意する。
- ③ 教員は強化子を与える人に徹する。

指導目標の設定



【場面の設定】

登校後の着替え

行動の滞り

最も多い

【目標】

着替えスペースに入ってから10分以内で着替えることができる。(教員の支援あり)

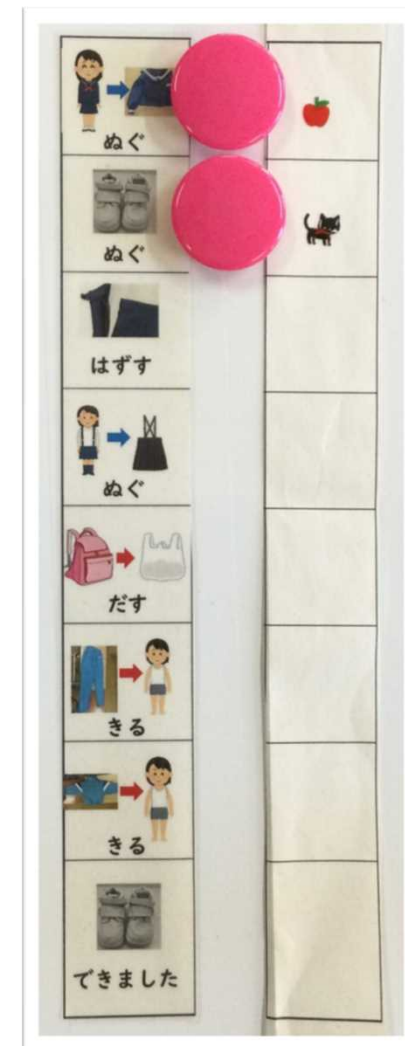
※ AI-PACの俯瞰図より

学習基盤(自己統制)のトークン(DTT)


の手法を活用して取り組む。

指導の手続き

- ① 着替えの行程を8分割にし、画像入りの手順ボードを着替えスペース内に設置する。
- ② 1行程できたらマグネットを教員から手渡し、児童がボードに貼る。
- ③ マグネットの個数がたまったら、教員から**強化子**が提示される。



指導の各段階

段階	マグネットの数	強化子	着替えの後
ステップ1	1こ	小シール	シールを貼った紙が もらえる
ステップ2	2こ	中シール	
ステップ3	4こ	大シール	
ステップ4	8こ(全部)	おもちゃ	3分遊べる 

支援の方策

- 「手伝ってください」と言ったときに着替えの支援をする。
- 行動が滞る兆しがあれば、即座に**プロンプト**を出す。

〈プロンプトの種別〉

- ①指差し
- ②モデリング
- ③動作補助
- ④言語

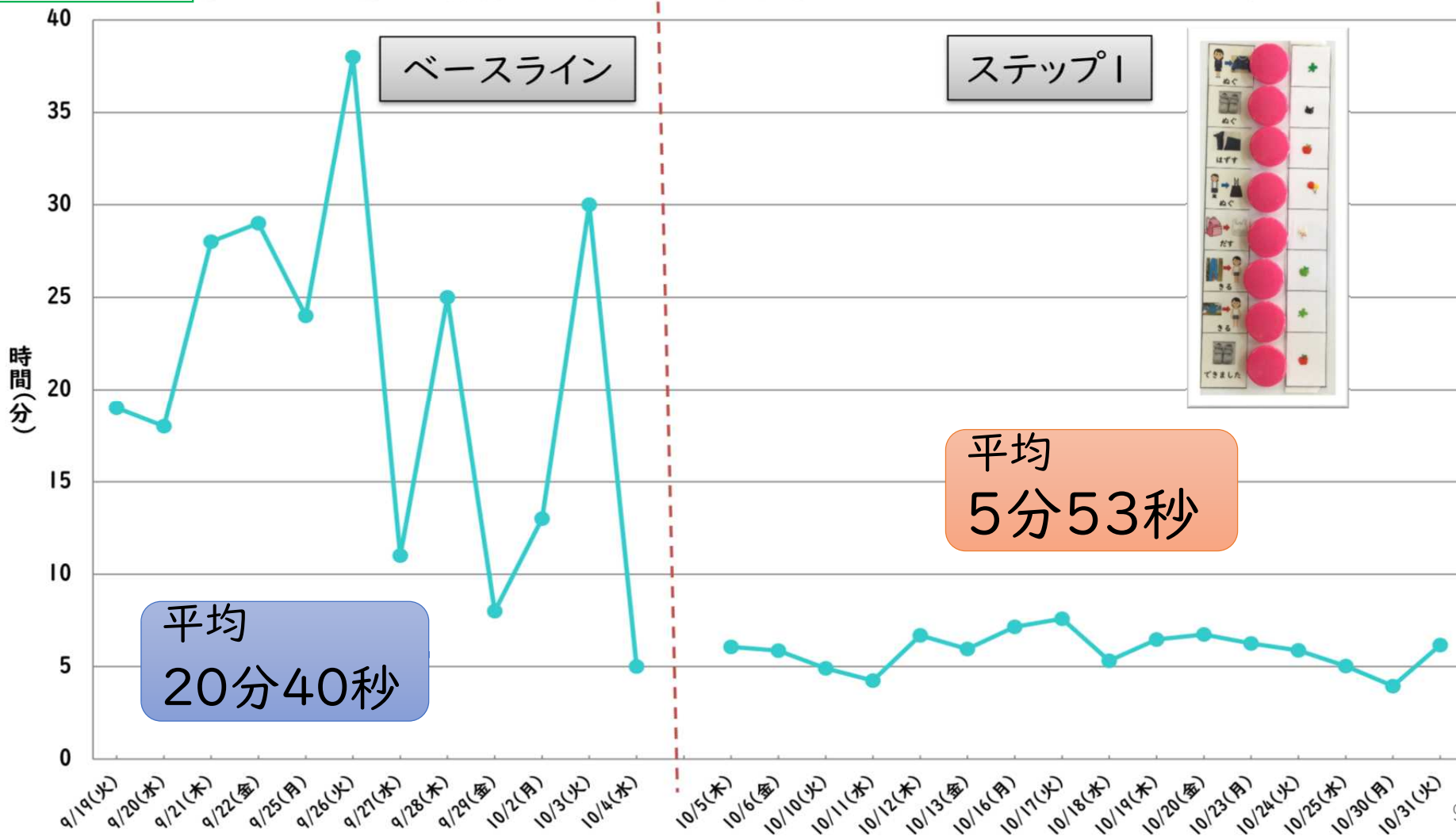
記録方法



- 着替えコーナーへの入室から最後のマグネットを貼り終えるまでの時間を計測する。
- それぞれの手順で必要だったプロンプトの種類と回数を記録しておく。

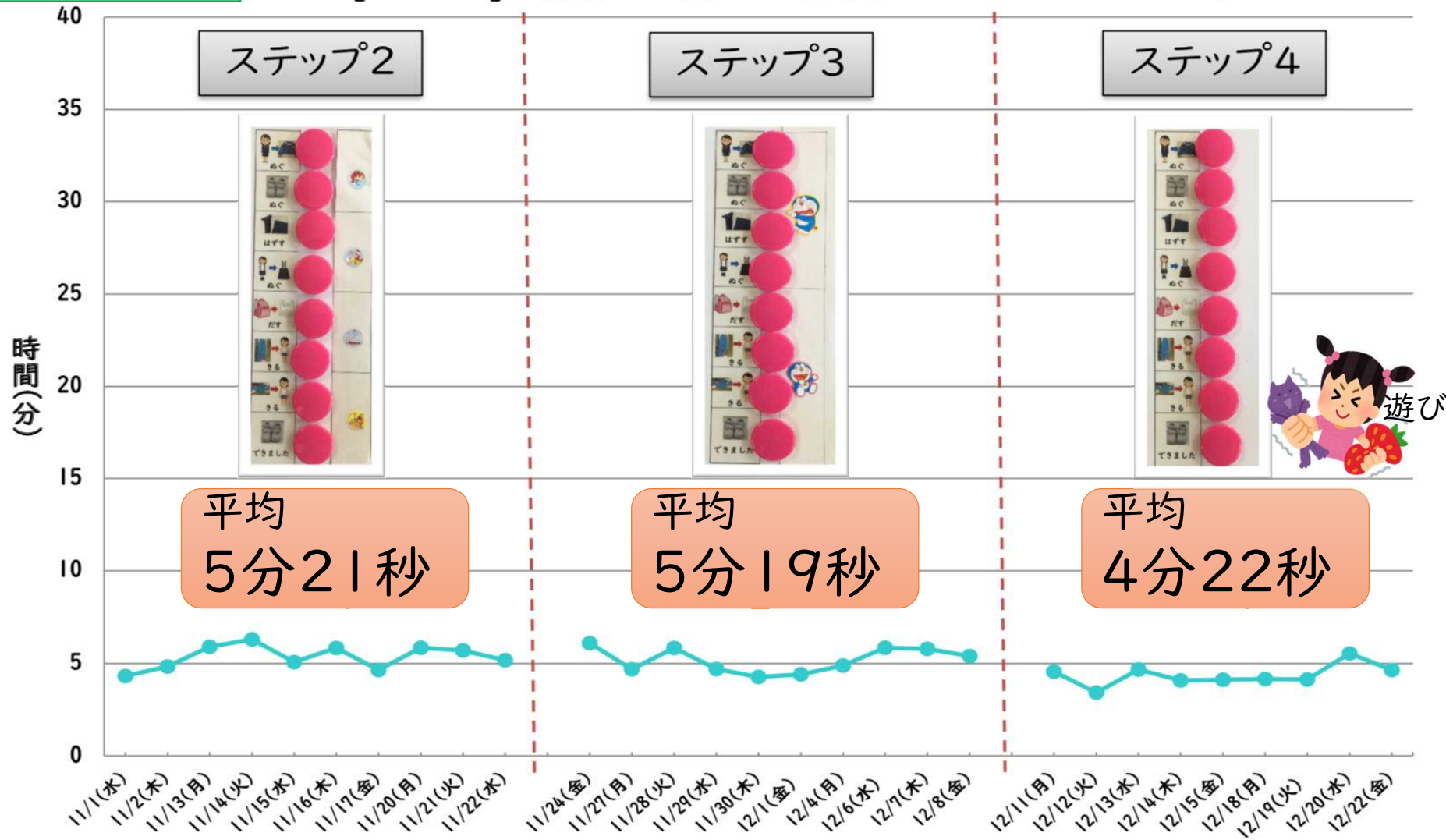
結果①

[グラフ1] 着替えに要した時間 (ベースライン~ステップ1)



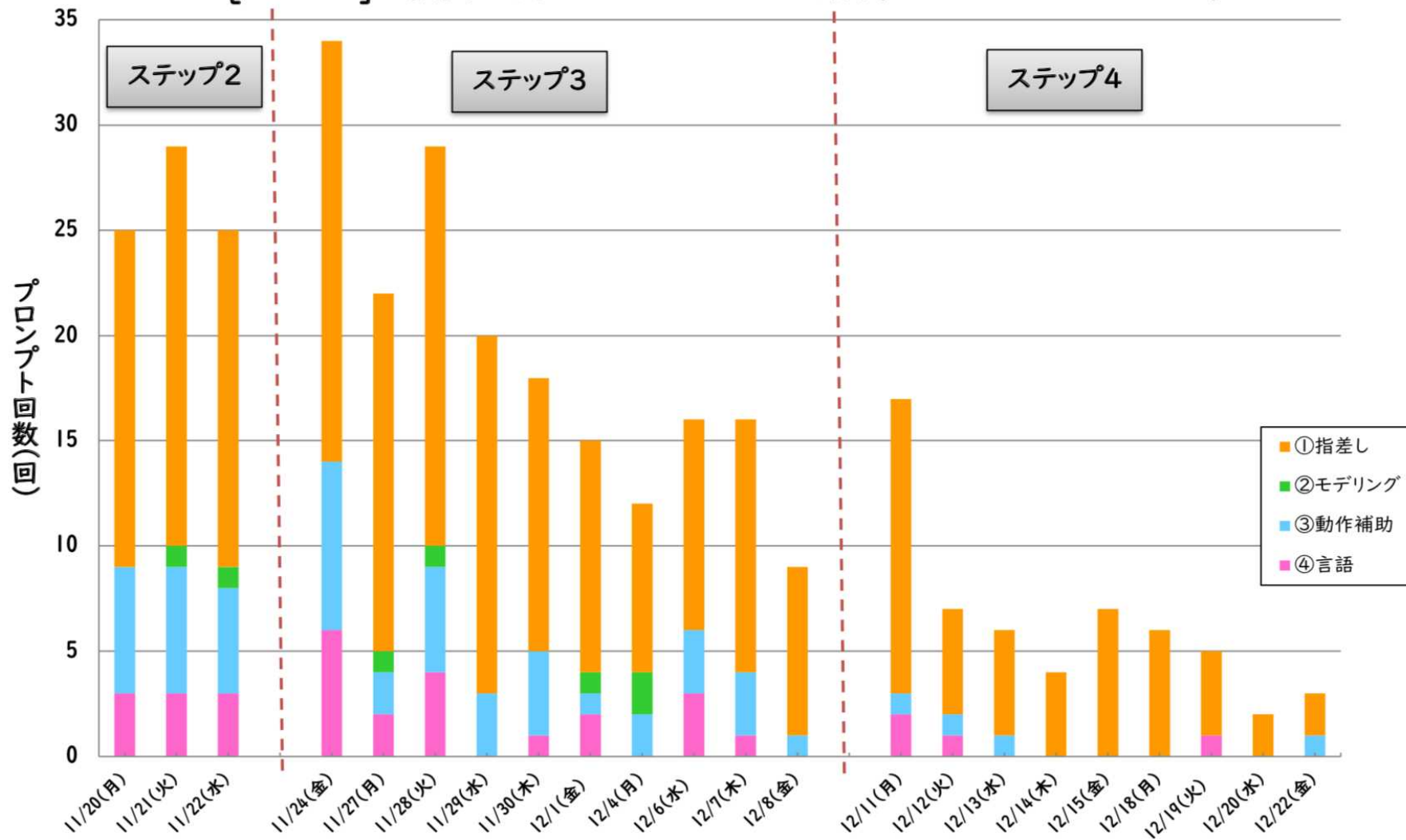
結果②

[グラフ2] 着替えに要した時間(ステップ2~ステップ4)



結果③

[グラフ3] 教員が出したプロンプトの回数(ステップ2~ステップ4)



取組の成果



- ① 毎日**5分前後**で着替えることができるようになった。
- ② 段階を踏むことで、ごほうびまでの手順が増えても**滞ることがなくなった**。
- ③ 取組が進むにつれ、**プロンプトを減らして**いくことができた。
- ④ 児童が自発的に「よーい、どん」と言ってから着替えるようになる等、着替えることに**前向きな姿勢**を持つことができるようになった。

ここが成功のポイント



- ① 強化子を効果的に使用することで、児童にとって苦手な活動でもモチベーションを高めることができたこと。
- ② 支援者の関わりを精選、統一化できたこと。
- ③ 必要なプロンプトの種類や場面を記録することで、短時間で着替えるための条件を洗い出すことができたこと。
- ④ 今後、手伝いなしで着替えるための環境設定や視覚的なプロンプト等について考えていくための土台ができたこと。